

最大級のヒヤリハット事案を生かし、児童の命を守る。

先週土曜日の下東のコンクリート河川での濁流からの救助事案は、少しでも遅れていたら、間違いなく流され、命を失っていたらと思う最大級のヒヤリハット事案でした。



A君は、腰まで濁流につかりながら、下の写真の横穴の縁に手をかけ、必死に流されるのを耐えていたのです。

既に各教室で児童の指導は十二分にされたと思いますが、まだ梅雨の最中であり、現代の異常気象状況では、今後もいつ起きるか分かりませんので、大雨の安全指導はことある毎にお願いします。

指導ポイントは次の点です。

①川や溝で遊ぶ際には、その日の天気予報を確認しておくこと。

今回のような急な集中豪雨の予想は難しいですが、「大気が不安定」という情報があればこんなことも起きることを学年に応じて指導して下さい。

②山間部（鳳翩山辺り）の天気状況に気をつけること。

今回も雨が降る少し前、鳳翩山がだんだん見えなくなり、やがて真っ白（降雨帯）になっていきました。その範囲はどんどん降りてきて、平川から見ても平地が真っ白になっていました。吉敷の子どもなら、そのことを誰もが強く意識しておかなければなりません。鳳翩山周辺の大雨は、基本的には、吉敷川に流れ込むでしょうから、まずは吉敷川での増水の危険性を理解して、鳳翩山が白くなってきたら吉敷川から上がるようにしなければなりません。

③吉敷地域の小さな河川・溝の危険性を知っておくこと。

今回の事案箇所である下東の川に集まる雨水は、土師八幡周辺から朝倉地域に降ったものですが、吉敷地域には背後に山があることから、吉敷の小さな河川や溝は、吉敷川以上に一気に水かさが増すことも知っておかなければなりません。特に、下東周辺は土地が低く、河川・溝も小さいことからしょっちゅう氾濫しています。

この知識を基に、雨が降ってきたら、すぐに川や溝から上がることを習慣づけたいものです。

まずは、この3点について徹底して指導して下さい。

また、この事案から、本校での本格的な防災教育の必要性について改めて強く感じました。

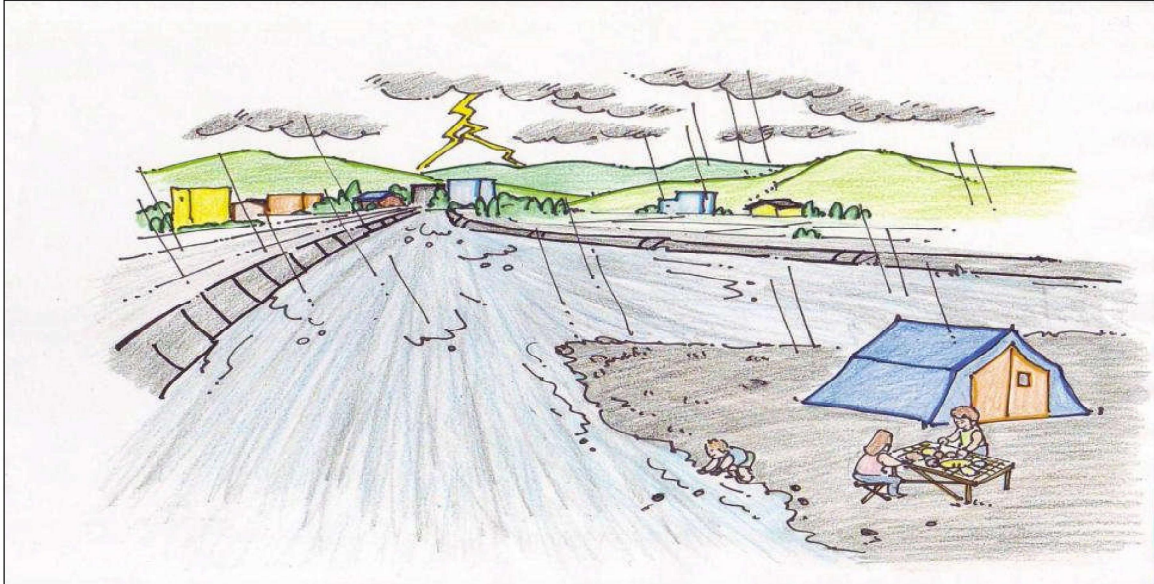
本校の総合的な学習の時間の新しい全体計画では、5年生に吉敷の防災教育の単元を設定しています。吉敷地区の地形から考えられる災害について学ぶことは、命に直結する非常に重要な学習です。吉敷地域のどの辺りが危険なのか。単なる吉敷川の自然環境だけでなく、防災教育という視点で捉え直すことは必須です。

新たな防災総合にダイナミックチャレンジをお願いします。

また、日々の防災教育には県教委学校安全・体育課作成の「KYT」資料が便利です。様々な状況について資料が用意されていますので是非ご活用下さい。

今回のような、山間部での降雨時の平地の河川の危険については、この様な資料が用意されています。

災害安全KYT資料⑨ ワークシート例



① このイラストは、どのような場面ですか。

② キャンプをしている家族には、どのような危険が考えられますか。

③ 危険を避けるためには、どのようにしたらよいですか。

④ 川遊びやキャンプをするときには、どのようなことに気を付けますか、グループで話し合い、短い言葉でまとめましょう。

なお、今回の事案については、後ほど、保護者宛に安心メールで概要を知らせ、注意喚起をしていきます。